

今年中には、蓄積データを基に現場条件に応じた自動運転条件を提示する機能も導入される見込みで、施工支援機能の拡充が進められている。

また、圧入機の自走操作をワンタッチで自動化する機能に加え、

「など」の質問があった。休閑中に飲んだ空き缶をサイクルなども学び、工学会は終了した。



認定証を手渡す青山会長
とだ。ステンレス鋼販売技士の合格を新たな出発点として営業に活用してほしい。ステンレスの需要が伸びない時代に業界団体として必要なことは話し合う場を設けること。人材や運送など共通の



記念式典で鏡割りを行った

ステンレス表面処理の同社は1943年(昭アベル(本社・大阪府八尾市、社長・居相浩介氏)業。65年に電解研磨による1月に60周年記念式典を京都市左京区のエクスンプ京都八瀬離宮で開催した。

同交流会は初めての試みで、日ごろ他社との交流が少ない内勤者を対象に、自社の問題解決に役立つような他社の好事例を紹介する。好事例を紹介するのは天彦産業(社内活動による社内交流活性化)、北島鋼材(ICTを活用した事務作業の効率化)、三利特殊鋼(脱・紙媒体!総務部の挑戦)の3社。好事例紹介後は場所を移し懇親会を行う。募集人員は20人(1社から複数の参加もできるが、応募者多数の場合は調整の可能性あり)。

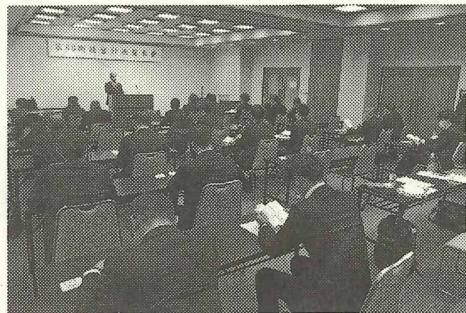
掲示板

▽全日本特殊鋼流通協会大阪支部は、3月17日に業務や総務、経理関係など内勤者のための交流会を大阪市中央区の鉄鋼会館で開催する。

小田鉄工が経営計画発表会

小田社長「ピンチをチャンスに」

Mグレードファブの小田鉄工(本社・兵庫県加西市、社長・小田岳人氏)は6日、兵庫県加西市のホテルで、第60期経営計画発表会を開催し、同社社員や取引先など関係者35人が出席した。



取引先など35人出席した

冒頭、挨拶した小田社長は「企業は時代の潮流に変わらなければならない。変化や顧客のニーズに柔軟に対応していくことが重要となる。当社の経営理念である『仕事を通じて、社会を良くする』を実現するために、社内内外の皆さまが『機嫌がいい』という環境整備をしていきたい」と語り、来賓挨拶では、但馬銀行の齊藤太朗加西支店長が同社へ一紙を贈った。



挨拶する小田社長

5千万円の増収増益を目標に設定。新規事業のトレーラーカー製造・販売についても許可手続をクリアし、今期中の成約を目指している。安全対策の徹底や資格取得の奨励、生産性向上についても語った。

その後、小田社長が挨拶で「おかげさまで(当社は)60年が始まった60期の事業計画を好成績でスタートし、親睦を深めた。」と語り、2025年12月か、懇親会では大野物産の齊藤場長が閉会の挨拶を述べた。

参加費は懇親会参加の場合は5千円。参加希望者は20日までにhttps://e-ve.event-form.jp/event/123215/office-workerからの申し込みが必要。